

養鰻業の齊藤水産(宮崎市)には広さ約500平方メートルの養殖池が16面あり、年間約50万匹のウナギを出荷している。宮崎県内の養鰻業者としては平均的な規模という。近隣に太平洋に面した海岸があり、ウナギの稚魚であるシラスウナギが採れる。稚魚が出荷可能な大きになるには天然物だと6〜7年を要するが、養殖池で育てた場合には1年ほどで足りるとい

う。テリアも活性化し、最適な養殖環境になる」と話す。養殖には温かい水が欠かせない。齊藤直之社長は「水温30度C前後だとウナギの成長が良く、病気も少ない。水中のバクP)システムを使って間

齊藤水産

同社の養殖池では20度の地下水を利用。ヒートポンプ(H)システムを使って間

モノづくり現場

生産革新・脱炭素社会への挑戦

3

HP導入 養殖池の温度維持



4年間でCO2 1511ト削減

接的に池の温度を維持している。ヒートポンプを導入して、1年を通してウナギの出荷できる体制を整え

減は大きな社会的使命だと認識していた(齊藤社長)という。

ラを利用していた。だが重油の値段が安定しないことが経営課題となっていた。また「地方の事業者であっても二酸化炭素の排出量削減が求められる。養殖池の温度制御盤を操作する齊藤社長

【事業所概要】▽所在地 宮崎市佐土原町市下田島159334の191、09855・73・37666▽主要生産品目 養殖ウナギ▽年間CO2排出量 28万6564キログラム(2008年)